

設問

[問い1] 考えられる質問6つ

- (1) メディア社会学科ではどのような勉強をしているのですか？
- (2) 授業がはいてこないとどのような点がはいてこないのでですか？
- (3) 友達と同じ大学に入学してみても今の状況とどのように思われますか？
- (4) キャリアセンターで普通に相談したいというところのようなことですか？
- (5) カクチカが書けないという状況になるとどのように感じられますか？
- (6) アピールできる経験とはどのようなことイメージされていますか？

[問い2]

事例ⅠのCCt11 (相応しい・相応しくない) 良かった点

理由: 専攻が合わないという感情に焦点をあてて、化夏聴することで、就活の際にアピールできる経験が無いという価値観を聴くことができていた点。

事例ⅡのCCt11 (相応しい・相応しくない) 悪かった点

理由: 就活の際にアピールできる経験が無いということが相談者にとってどのような意味があるのか聴くことができなかった点。

[問い3] CC視点の問題

相談者は理数系の勉強を楽しいと感じていたが、友達と学部を合わせる為に無理に異なる分野の勉強をして入学しており、自身の専攻についての価値観の理解不足が考えられる。また、就活の機会を重く行う際、「カクチカ」やアピールできる経験が無いという発言より、これまでの経験やスキルへの理解不足があることが考えられる問題点である。

[問い4] 今後の展開

今の状況が続くときびしいと感じている相談者の感情を丁寧に化夏耳にし、前向きに自身の進路に向き合えるように促す。その上で、job tagの興味・価値観検査を紹介し、相談者の同意が得られれば、利用を促して自身の価値観について理解を深めてもらう。また、メディア社会学科での勉強や、大学での活重の相談卸しを共にを行い、経験やスキルについての理解を促す。以上により、相談者が今後の進路を主体的に意思決定できるよう支援を行う。